

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2013年6月 [第63号]



活動の方向性

ナイロビ便り

ひと

ひと

ケニアでの活動から

国内

国内活動から

フォトレポート

事務局から

小学校での環境活動

総選挙で平和な政権交代が実現

インターンからスタッフに

インターンを終えて

2013年度 年次総会報告

ミグワニ県の小学校における保護者の環境活動

永岡 宏昌

永岡 宏昌

小山 杏菜／鬼頭 景子

福田 幸

写真は、土壌侵食が進む、斜度のある校庭で、布をまるめたボールを使つてのサッカー

小学校での環境活動

代表理事 永岡 宏昌

会報第 59 号(2012 年 6 月発行)で、ミグワニ県の 2 小学校での緊急の土壌保全について報告しました。土壌流出で基礎が露出した教室の周りに防護壁を作り、土地や石で埋め戻すという作業を実施しました。

ミグワニ県では、他にも多くの学校で同様の問題があったり、校庭など敷地での降雨による土壌侵食が見られたりします。その理由として、ミグワニ県の地形が丘陵や尾根などが多く、学校の多くが斜面に造られていること、ムインギ東県に比べて、小学校の設立時期が早いことなどが考えられます。住民によって自律的に建設された教室、整備された校庭が、長い間、適切な雨水の流れの管理や土壌保全がなされていなかったために、現在の状態になったようです。

そこで 2012 年度の後半から、小学校での土壌保全には緊急ではなく、保護者が参加する環境活動として取り組んでいます。教室建設などと同様に、資材収集や労働参加ばかりでなく、保護者はその準備段階の研修において、運営能力向上や土壌保全・環境活動に関連する技術を学びます。

具体的な環境活動は、それぞれの学校の状況によって異なります。教室周りの防護壁

作りのほか、校庭内に流れ込む雨水の流れを変えるように、教室の背後に排水路を作ること。雨水が敷地をえぐり、リル侵食(rill-細溝侵食)やガリ侵食(gully-雨裂)が発達し始めている場所で、土壌の流失を防ぐために、等高線上に小石を並べたり、溝を掘ったりすること。深く侵食しているガリの場合は、強い水の流れを抑えられるように、等高線上に大きく溝を掘って、金網のなかに石を詰める「蛇かご」を設置したり、防護壁を作ったりします。また、裸地となっている敷地に、草を植えること、さらに、木を植えることで、根が土を抱えて流失を防ぐ効果が期待できます。

活動の形成にあたっては、学校ごとに、施設の状況を監督する行政職でもある公衆衛生官を招いて、環境状況の視察と取り組むべき環境活動の助言を受ける形にしています。当会も視察に同行しますが、あくまで、公衆衛生官から学校への公文書での助言を求めます。その助言内容をもとに、当会と学校とで、その学校にとって優先度の高い環境活動を選定して、活動を形成しています。

これらの活動を通して、学校の環境保全とともに、保護者の能力強化、保護者と行政官との協働の成功体験をしてほしいと考えています。

ナイロビ便り

総選挙で平和な政権交代が実現

永岡 宏昌

2007 年末のケニア総選挙は、キバキ氏の大統領当選発表にオディンガ氏支持者の暴動、並行してリフトバレー州でカレンジン人集団によるキクユ人などへの暴力とキクユ人集団による報復が発生しました。その後、国際調停による和解を経て、平和な国造りのための努力が行なわれました。人権を尊重した新憲法発布、立法・行政ならびに選挙制度変更、独立選挙管理委員会(IEBC)設立、選挙後暴力を扇動した人物の国際刑事裁判所(ICC)での起訴、民族間の憎悪をあおるメッセージ発信・発言の禁止などがあります。

今回の選挙は、キバキ氏の引退でオディンガ氏が次期大統領と目されていました。対抗して、ケニヤッタ氏とルト氏とが正副大統領候補として連携しました。2 人は前回、対立したキクユ人集団とカレンジン人集団それぞれを扇動した首謀者として、ICC で起訴されています。選挙直前の世論調査では、ケニヤッタ氏 44.8%、オディンガ氏 44.4%と前回は思い出させる拮抗状態でした。今回は過半数の得票がなければ上位 2 者による決選投票が規定されています。1 回目の投票で決着がつかず、第 3 の候補ムダバディ氏に相応の支持 5.2%があるため、決選投票でオディンガ氏がムダバディ氏と連携して

大統領となるとの予測が大勢でした。

2013 年 3 月 4 日に実施された総選挙の投票はおおむね平和に行なわれ、開票の結果について通信ネットワークを利用した集計の速報が続きました。そこで無効票が多過ぎるとの疑義が提示され、IEBC はコンピュータ・プログラムのミスで、無効票のみ 8 倍されていたと発表。各地からの正式な得票数報告書を集計する作業に切り替え、当初 2 日程度で出るとされていた結果は、5 日後の 3 月 9 日午後の発表となりました。その間、学校は休校、行政機能が止まって、物流なども滞り、暴力の発生を心配した緊張状態のなかで人々は待ち続けることになりました。結果は、ケニヤッタ氏が投票総数 1233 万 0028 票のうち 617 万 3433 票、半数を 8419 票超えて 50.07%¹で大統領に当選。オディンガ氏が最高裁判所に不服を申し立てて、特定の選挙区での投票用紙の計算や得票数報告書の検査が行なれませんが、却下されました。結果として、ICC 被告が正副大統領になり、今後の裁判の展開や国際関係など不安要素ばかりですが、まずは、おおむね平和に政権交代が実現したことを喜びたいと思います。

¹ 後に最高裁判所が、有効投票数 1222 万 1053 票を母数とする判決を出したため 50.51%となる。

ひと インターンからスタッフへ

2012年にインターンを修了したスタッフを紹介します

こやま あんな
元調整員 小山 杏菜

私は、CanDoで2012年2月から7月までインターンとして、8月から12月までスタッフとして活動しました。昨年の6月までは、ミグワニ県での地域住民向けのエイズ学習会と母性保護学習会、その後は基礎保健研修を主に担当しました。

活動中、CanDoが目指す「地域に住む人たち自身が考え、その行動によって、暮らしがより豊かに変わることを達成するために、どのようにするのがよいのか、ということ」を日々考えさせられました。

学習会や研修で、他の団体のように食料配布など参加者にすぐにメリットがあることをすると人は集まります。けれども、それでは知識を得て、実際の生活で実施するという結果を得ることは難しい。そして、エイズ、性感感染症など慎重に扱わなければならない内容もあります。説明の仕方なども改善が求められました。

問題や対策などについて、ケニア人スタッフと日々会議をし、あつという間に過ぎていった、とても充実した10か月でした。

きとう けいこ
新調整員 鬼頭 景子

大学時代に、「カリブ(ようこそ)」という言葉で受け入れて、親身になってくれるケニアの人々に魅せられた。ケニアの状況などを聞きたいという理由で、2010年にCanDoの連続勉強会に参加し、私自身疑問を持っていた慈善型ではない参加型援助の形を知った。もっと理解したいと思い、2012年6月よりインターンとなった。

関わっている教室建設・補修の学校視察では、生徒が溢れかえっていたり、換気が不十分で熱気がこもったりする教室が多く見られる。ただ建設するだけでなく、保護者の能力向上もCanDoでは目的としている。積極的に参加してもらい、知識を移転することで、子供の学習環境を整え、その後の建設・補修にも役立ててほしい、と思う。また、今まで外部からの支援に頼ってきた人が、自助の精神を持てるように何かをできれば、と考えられるようになった。

2013年1月よりスタッフとなった。、国際協力にはいろいろな形があるが、今、効果が見えにくい参加型という、地域の持続的な自立支援に貢献しているCanDoで活動の一端を担えることは光栄なことである。

ひと インターンを終えて

早期性交渉予防研修で学んだ、知識の意義

みゆき
福田 幸

2012年9月から2013年2月まで、インターンとして保健活動に従事し、小学校での早期性交渉(妊娠)予防研修を担当しました。

小学生の妊娠による中退が問題となっている状況のなか、教育事務所との綿密な連携のもと、早期妊娠の危険性を伝えるため、小学校を訪問して回りました。研修中に教員や保護者から話される子どもたちが置かれている現状は、今の日本ではとても考えられない痛ましいものばかりでした。けれども、その子どもたちは想像していた以上に知識があり、また、素直に知識を吸収していることがうかがえました。大人たちのなかでも、正

しい知識を広めて子どもたちを守ろう、と声を上げてくれる人がいたことは、研修を行なった意義を実感できる瞬間でした。

使えばなくなるお金ではなく、一生の財産となる知識の伝達は、地域の人たちが自身で考え行動するきっかけとなり、それは国際協力の要であることを学びました。現在、関わっている国と分野は異なりますが、そのことを胸に、活動を続けていきたいと思います。5か月半*ありがとうございました。

*3月の総選挙の治安対応のため、通常の6か月より期間が短縮されています。(編集部)

ケニアでの活動から 2013年1~5月

- ◆**小学校・幼稚園の施設拡充**—ミグワニ県
◇運営能力向上と教室の建設、基礎保全と構造補修：2012年度に開始した教室建設、基礎保全、構造補修はすべて完了。2013年度の対象校で、学校運営能力向上事業の覚書(MOU1)の締結、学習会が始まる。
◇水タンクの供与：3校で設置の準備作業が進む。
- ◆**学校：環境活動の促進**—ミグワニ県
2012年度に開始した学校での土壌保全を継続。2013年度の対象校で覚書の締結、学習会が始まる(植樹、草地化など)。

- ◆**学校：保健**—ミグワニ県・ムインギ東県
◇エイズ教育研修：3校で公開授業。
◇早期性交渉予防研修*：3校とムインギ東県の4校で実施。
◇幼稚園の保健活動：トイレ建設が2園で進む。2013年度の候補の幼稚園を訪問。
- ◆**地域：保健**—ミグワニ県・ムインギ東県
◇基礎保健研修：すべての準区で完了。
◇エイズ・リーダー研修*：各2準区で研修。リーダーによる学習会も始まる。
- ◆**高校生への補習授業**—ナイロビ市ムクルスラム群：教育省の許可を得て、講師の大学生が4月に実施。

2013 年度年次総会を開催しました

3月30日(土)、文京区汐見地域活動センターにおいて、2013 年度年次総会を開催しました。

一般会員 31 名(うち表決委任者 25 名)が出席し、定足数(3分の1以上)を満たして成立。加藤明彦さんが議長を務めて、第1号議案の2012年度活動報告と会計報告、第2号議案の2013年度活動計画と予算書を審議し、承認されました。

第3号議案として、役員(準理事)の追加選出が提案されました。

2012 年度年次総会の役員改選で、開催時期の事情から東京事務所とナイロビ事務所の中心で業務に携わるスタッフが入らなかったことがその理由です。調整員 伊東彩と事務局長 久保内祥郎の2名の選出が承認されました。任期は、次の役員改選までの1年間(2013年4月1日から2014年3月31日まで)。

役員は、理事7名、監事2名、準理事7名となります(準理事は、理事会での議決権はありません)。

国内活動から

2013 年 5~6 月

第5回アフリカ開発会議(TICAD V)と関連した活動

1993 年に「東京アフリカ開発会議」として始まって20年、6月1日から3日、横浜で第5回アフリカ開発会議が開催されました。

●TICAD Vコンタクト・グループのメンバー団体として

今回、日本の NGO はアフリカ日本協議会(AJF)が事務局を担って、TICAD Vコンタクト・グループを結成。CanDo はメンバー団体として、国内にいる間、永岡がミーティングに出席してきました。本会議では、モニター・ルームで傍聴しました。

●ゆうちょボランティア貯金創設 5 周年記念「今を見る、聞く ボランティア活動リポート from アフリカ」で永岡が報告

5月3日、横浜港大さん橋国際客船ターミナルで開催されたイベントで、前は南アフリカのドラム・パフォーマンス「ドラムストラック」の演奏、後は白井貴子さんのライブという構成。写真を多く使って、ケニアの紹介を主に最後に活動を分かりやすく話しました。

●アフリカン・フェスタ 2013 に出展

前回から1年半、5月11日、12日に横浜・赤レンガ倉庫で開催されたアフリカン・フェスタ 2013 に出展し、パネル展示とカンパの人たちが作るサイザル・バッグなどを販売しました。

フォト・レポート

ミグワニ県の小学校における保護者の環境活動



↑ 土壌侵食の問題がある小学校の校庭



↑ 等高線に沿って、石を積み上げる「石堤」の方法



↑ 等高線に沿って溝を掘り、テラス状に土を盛り上げる方法



↑ 金網の中に石を入れる大きな塊「蛇かご」の設置



↑ 上部では、草が生えてきています



↑ 昨年11月の調査で、生徒が作った小さな「石堤」を発見(左にのぞくのは靴の先です)

事務局から

報告

◇組織

○2013年3月30日、2013年度第1回理事会、および2013年度年次総会を開催(p.6参照)。

◇国内活動

○5月11日、12日、横浜・赤レンガ倉庫で開催されたアフリカン・フェスタ2013に出展。
○5月17日、CanDo勉強会を開始。第1回は「2013年ケニア大統領選挙と、植民地化・民族問題について」。24日、第2回「村の生活と社会開発:『参加』をめぐる課題」、6月7日、第3回「後退するケニアの無償教育、小学校への住民参加の意義」を開催。

人の動き * 派遣・出張先はケニア

○2月25日、福田幸、才田恵里奈がケニアでのインターン期間を終了。
○2月27日、短期専門家 吉田真季子が任期を終了して帰国。
○3月18日、樋惇紀が国内インターンを終了。
○3月27日、代表理事・事業責任者 永岡宏昌が帰国。
○3月27日、調整員 鬼頭景子が帰国、4月日再派遣。
○4月14日、岩本穂菜美(いわもとほなみ)、

15日、安井達哉(やすい たつや)、19日、藤原照恭(ふじわら てるやす)をインターンとして派遣。

○5月18日、調整員 石田純哉が退職。

お知らせ

■ CanDo 勉強会

・7月5日(金)-第4回「ムインギにみる生活と環境問題、小学校での活動」
・7月12日(金)-第5回「エイズ基礎知識、ムインギでの課題と住民へのエイズ教育」
・7月19日(金)-第6回「ムインギの小学校でのエイズ教育・早期性交渉予防研修」
時間: 19:00~21:00

会場: 文京区民センター 3-C 会議室
東京都文京区本郷 4-15-14
TEL 03-3814-6731

最寄り駅: 都営三田線・大江戸線「春日駅」、
東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園駅」、JR
「水道橋駅」
参加費(資料代): 500円(会員は無料)

■ CanDo 設立 15 周年記念シンポジウムと感謝の集い

7月20日(土)に、文京区民センターで開催します。詳細は、同封の案内をご覧ください。

■次号は、2013年9月に発行の予定です。

CanDo アフリカ [第63号]

2013年6月20日発行

発行人: 永岡宏昌 編集人: 佐久間典子
発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中 2-9-14 第2森川ビル B号室
電話/FAX: 03-3822-1041
電子メール: tokyo@cando.or.jp
ウェブサイト: http://www.cando.or.jp/
郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会